

第374空輸航空団 新司令官就任 *374th Airlift Wing welcomes new commander*

July 10, 2026

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

7月10日、横田基地格納庫15番で指揮官交代式が執り行われ、ダニエル・メンドーザ大佐がリチャード・マックエルハニー大佐から指揮権を引き継ぎ、第374空輸航空団司令官に就任した。

式典では、第5空軍司令官ジョエル・キャリー中將が執行官を務め、空兵やその家族をはじめ、来賓、地元自治体の首長、自衛隊の幹部らが出席した。

指揮権交代式は、日本に恒久的に前方展開する米空軍唯一の空輸航空団である第374空輸航空団の指揮権移譲を正式に示すものとなった。キャリー中將は挨拶の中で、即応態勢、相互運用性、そして機敏な戦闘展開（ACE）の実践を通じ、同航空団がインド太平洋地域における米国の戦略目標の推進に重要な役割を話していることを強調した。

「第374空輸航空団は、部隊の育成、装備、訓練を進めるとともに、日米同盟を強化し、空兵とその家族を支える取り組みを積極的に推進してきた。インド太平洋地域全体において卓越した模範であり続けている」とキャリー中將は述べた。

またケリー中將は、こうした成果はマックエルハニー大佐の2年間の指揮の下で実現したものだとして評価した。マックエルハニー大佐は在任中、過酷な環境でもロジスティクス支援と継続的な作戦遂行を可能にするロジスティクス緊急対応部隊を新設し、航空団のACE運用能力を強化した。この部隊は、フィリピン、スリランカ、北マリアナ諸島での人道支援・災害救援活動を支援し、190万ポンド（約860トン）を超える支援物資を輸送したほか、太平洋地域で将来発生しうる緊急事態への対応能力向上にも貢献した。更に、基地運用の効率化やイノベーションの推進、隊員と家族の生活の質向上にも取り組み、横田基地全体の支援体制の強化を進めた。

新司令官に就任したメンドーザ大佐は、空軍で最初の飛行任務地だった横田基地への帰任と、再び横田コミュニティに貢献できる喜びを語った。「横田基地は私にとって最初の飛行任務地だった。東日本大震災時の『トモダチ作戦』では、横田基地のC-130Hで仙台へ支援物資を輸送し、日本の人々の不屈の精神を目の当たりにした。家族とともに、このコミュニティに貢献できることを楽しみにしている」と述べた。

メンドーザ大佐は今後、第374空輸航空団の軍人および民間人職員を率いる。同航空団は迅速なグローバル機動力を提供するとともに、インド太平洋地域における統合作戦を支援し、地域の即応態勢、人道支援、災害救援、さらに同盟国・パートナー国との共同作戦を支える重要な拠点としての役割を担っている。

式典では、ケリー中將が第374空輸航空団の部隊旗をマックエルハニー大佐からメンドーザ大佐へ手渡し、航空団の隊員、任務、資源に対する指揮権の正式な移譲を象徴的に示した。

最後にメンドーザ大佐は、「皆さん一人ひとりを信じている。そして、我々の任務を信じている。共に限界を超え、祖国の要請に応えていこう」と横田基地のチームと将来への期待を表明した。

